



ウェルカム講習 H27.9月～11月 県内4会場で開催

今年度も「ウェルカム講習会」を9月27日から11月16日までの間で、太田、高崎、富岡、前橋の県内4カ所で開催しました。昨年度までは全8日間の研修でしたが、昨年度の受講生の意見から、より受講しやすくするために今年は全6日間で、25名が修了されました。

この講習会は介護未経験の人に介護の仕事の基礎を学んでいただき、できれば我々地域密着型サービス連絡協議会の会員事業所に就労してもらうことを目的としています。

受講生からは「介護の仕事に対してのイメージが変わった！（よかった）」「楽しかった！」「濃い内容だった」という意見がありました。またアンケートから受講生の65%以上が「介護業界で働いてみたい」と答えてくれました。しかし介護現場で人手不足の状況は、なかなか改善していきません。来年度も引き続きこの講習会を実施していきたいと考えています。

研修部長・伊藤慎一



ご利用者のマイナンバーの収集は慎重に！

マイナンバーは医療機関や介護事業者の使用を想定した制度ではありません。マイナンバーに医療介護情報までひもづけてしまうと、万が一漏洩した場合芋づる式に多くの情報が流出するなど、非常にリスクが高くなります。厚生省が9月に通知した「介護保険最新情報」では、介護保険資格の取得や要介護認定などでマイナンバーの記載を必要とし、書類様式を公開しましたが、それとは別に2017年7月以降、医療IDとなる個人番号カードを発行し、健康保険証のような機能を持たせる計画とのことです。事業主としては職員のマイナンバーの管理が必須となりますが、ご利用者のマイナンバーはまだすぐには必要なさそうです。管理責任のある特定個人情報ですので、必要に迫られるまではお預かりしないほうが良いかもしれません。

募集！

ご利用者や職員の方の作品を募集します！
ジャンルは問いません。俳句や川柳などはFAXで、書道や絵などの作品は写真を撮ってデータで事務局までお送り下さい。掲載された方には粗品を贈呈します！

友来たり
おしゃべりしすぎて
歯が落ちた



GH入居者の方の作品です（＾＾）

Gumma CMS “地域”で生きる！

群馬県地域密着型サービス連絡協議会・会報

第28号・・・平成28年1月発行

あんじゃー
ない！

会長・恩田 初男



皆さまご存知の通り、我が国の認知症の人の数は平成24年時点で約462万人、10年後の平成37年には700万人と推計されています。団塊の世代の人が75歳の後期高齢者となる平成37年まで急速に介護を必要とする人が増加することになります。これに伴い、認知症の人も増加することは必然な事です。このような急速な高齢化に対して「重度な介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援を包括的に確保する」地域包括ケアシステムを目指した取組みが進められているところです。

また「認知症の人にやさしい地域づくりに向けて～」認知症施策総合戦略、通称「新オレンジプラン」が27年1月に策定されました。これは認知症の人やその家族を厚生労働省のみならず、関係府省庁が連携して日常生活全体を支えようとするものです。この二つの施策で共通していることは、「地域を視点とした取り組みであること」と「各省庁をはじめ医療・介護・地域住民を含めた連携で支える」事です。地域密着型サービスである小規模多機能やグループホームは、この二つの事を念頭に今後の運営を考えていく必要があると思います。

小規模多機能事業では、認知症になっても重度な介護状態になっても、通い・泊まり・訪問の柔軟なサービスを提供することによって、利用者が今まで培っていた地域の人達との交流を継続しながら、在宅生活を出来る限り長く続けてもらう支援を行っています。またグループホームは「認知症ケアの最期の砦」と言われ、認知症に対する専門性の高い支援により、家庭的な環境でその人の力を十分に発揮し、精神的な安定と喜びが得られるよう支援しています。小規模多機能事業所にしてもグループホームにしても、その特徴を生かし、利用者に対して精一杯の介護支援を行っているのが現状です。しかし地域包括ケアや新オレンジプランでは、その持っている専門性や資源を、利用者だけでなく地域に住む人達へも活用していくことが求められています。

そこで当連絡協議会では、各事業所が利用者の介護・支援だけでなく、身近な地域に住んでいる認知症の人やその家族に対して貢献していくための「認知症相談窓口」の設置を2年前から検討、ようやく研修会にたどり着きました。この研修は認知症の相談を行う担当者の研修です。研修を修了した皆さまは、ぜひ地域の中の身近な認知症相談の拠点となり、地域の人から頼られる、無くてはならない事業所になって頂きたいと思います。連絡協議会では、皆さまの活躍を期待し、バックアップしていきたいと思っています。

今後の予定

詳細が決まりましたら
FAXでお知らせします。

1 認知症相談拠点の研修
H28年3月3日（木）
群馬県社会福祉総合センター

2 定期総会
H28年5月27日（金）
群馬県社会福祉総合センター

Gumma CMS

群馬県地域密着型サービス連絡協議会

事務局 〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町 13-12
（群馬県社会福祉総合センター7階）

☎ 027-289-0908

Fax.027-289-0909

e-Mail renkyou@gunmaken-chiiki.net

ホームページ <http://www.gunmaken-chiiki.net>

小規模多機能グループホーム大会

H27.8月26.27日 群馬県社会福祉総合センター



初めての2日間。 初めての熱い夏。



今年度の大会は、初めて尽くし。

県内で福祉を学んでいる学生さんに、企画から当日の運営までお手伝いしていただきました。

「ただの参加募集では学生はなかなか集まらない。ボランティア参加のほうが良いかも」という学生さんのご意見からでした。

福祉系の学校にご協力いただいた事は、介護人材不足の対策を背景にした初めての試みでしたが、私たちの取り組みを知ってもらう良い機会となりました。

「地域密着型サービスは就業先の選択肢になかったが、概念が変わった」という声が聞かれ、今回のように学生さんに見てもらう、知ってもらう事は今後ますます重要になると感じました。

会員事業所の職員さんはもちろん、利用者さんのご家族や一般参加の方も例年より多く、2日間で約500名の方にお集まりいただき、実りある大会となりました。

実行委員の役員にとっては初めての2日間開催で負担も大きく、当日は戸惑う場面や不手際もありましたが、次回の反省点として活かしていきたいと思います。ご感想等お寄せいただければ幸いです。

現場からは約50の事例発表があり、内容も多彩でレベルが高い、というご感想もいただきました。事業所と個人の成長、モチベーションの向上など、実践や成果を発表するメリットはたくさんあります。発表をためらっている事業所さんは、ぜひ次回チャレンジしてみたいかがでしょうか？ 始めの一歩は事例発表すると決める事！早い事業所はもう次回の準備をスタートするそうです。目標に向かって意識するだけで、きっと何かが変わります。素晴らしい一歩となりますように…。

小規模多機能サービス評価についての研修 H27.12.4@太田



昨年の4月の介護保険法の改正で、小規模多機能は制度はじまって以来の大きな改正になりました。その為、加算の解釈などに悩んでいる事業所も多いようです。特に疑問の声が多かったサービス評価についての研修を、伊勢崎市の平成の家の阿久津さんの力を借りて高崎・太田・前橋の3ヶ所で行いました。小規模多機能運営部では、これからも、みんなの悩みを共有してみんなで解決できる研修をしていきます。

(看護) 小規模多機能運営部長・高橋大将

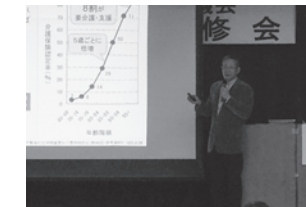
管理者等研修

H27.11月26.27日 伊香保・ホテル天坊



毎年恒例となった伊香保の研修会。今年度は「認知症相談窓口」の研修でした。

講師にお迎えした群大の山口先生からは、専門職に向けた内容で「認知症について」の講義をしていただき、群馬県心の健康センター係長・相談援助第一係長の島村さまには、相談業務の視点や手法についてお話しいただきました。当協議会の運営委員からは「相談窓口の手引き」の使用手法等の説明、井上名誉会長からは「地域の認知症ケア拠点として」のお話しをいただき、私たちの事業所が地域の身近な相談窓口として機能する為の具体的な勉強をしました。相談窓口となる申し出をいただいた事業所には、連絡協議会認定ステッカーを配布。認知症相談窓口の目印として、玄関等に掲示されます。研修後は恒例の懇親会でネットワークを強化。有意義で楽しい伊香保の夜を過ごしました。



？ 相談窓口ってどんな感じ？まずは研修を受けてみよう！

連絡協議会認定 認知症相談窓口になるまでの流れ

事業所

- 1 相談担当者は研修を受講
- 2 連絡協議会へ「相談窓口設置の申し出」

連絡協議会

- 1 研修修了者へ「修了証発行」
- 2 事業所へ「ステッカー配布」
- 3 「認知症相談窓口」登録事業所の情報を定期的に県及び市町村へ提供し、住民への周知を依頼。
- 4 相談内容の集約
- 5 広報活動

連絡協議会認定ステッカー



玄関等に掲示して地域にアピール！ステッカーのご利用にあたっては「相談窓口規定」をご確認ください。拡大使用は可能ですが、デザイン変更は原則不可となります。屋外向け・強粘着で耐候性のある素材ですが長期間日に当たると色あせ等があります。

ステッカーの追加購入については事務局まで

こちらは
見本です

全国グループホーム団体連合会 全国フォーラム H27.10月8日 京都・みやこメッセ



今年の全国大会は京都での開催でした。群馬県からは4名が参加。グループホーム不要論が出ている今、考えるべき取り組み事例が紹介されていました。共用デイや認知症カフェ、地域ケア会議への参加、そして認知症相談の受付など、簡単には取り入れられないかもしれませんが、地域の人に必要とされる存在になるために、新たな一歩を踏み出すヒントが散りばめられている研修でした。